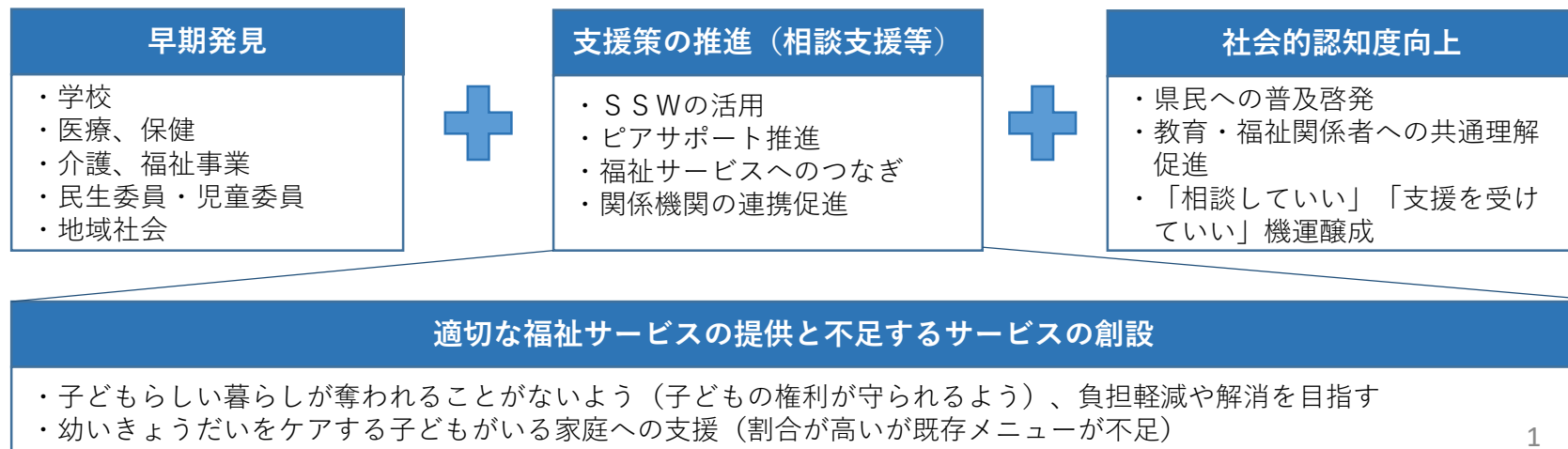


- ・状況が外部から分かりにくいことから、関係機関がしっかり発見・アセスメントすることが必要
- ・緊急的に支援が必要なケース①のみでなく、絶対数の多い②のヤングケアラーまでを支援対象と捉え、不安感・孤立感解消に向けたアプローチが必要
- ・早めに対処することで、状況の悪化を防ぎ将来への見通しを開いておくことが必要

【取組の方向性】 ※厚労省・文科省によるPTが示した方針に準拠



ヤングケアラー支援体制のイメージ

早期発見

アセスメント
／福祉へのつなぎ

相談受付／具体的な支援

ヤングケアラー及びその家庭

学校（教員）

子どもの様子を日常的に把握しており、発見の場面で大きな役割（最もヤングケアラーを発見しやすい機関）

高齢者支援事業所

障害者支援事業所

医療機関

民生・児童委員／住民

SSW

スクールソーシャル
ワーカー

ソーシャルワークの視点からの現状把握（本人・家族のヒアリング等）及びアセスメント



市 町

相談受付
（相談窓口）

関係者間の 協議・調整

- ・現状把握、アセスメント
- ・介護、障害、児童福祉、生活困窮等の支援窓口や教育、医療等の関係者の連携
- ・既存の協議の場（要対協等）を活用した支援内容の検討

福祉サービ
スの提供
（身体的
負担軽減）

見守り／
寄り添い
支援
（心理的
負担軽減）

市

町

県

「発見～相談～支援が円滑に繋がるための関係機関支援」、「普及啓発と支援の基盤づくり」

県